

新年に当たって

皆様、明けましておめでとうございます。今年こそ、世界にとっても日本にとっても良い年でありますように！本年も何卒宜しくお願い致します。

去年から今年にかけて、ここフクシマでも多くのことがありました。

帰還困難区域の避難指示解除

去年から今年にかけて、特定復興再生拠点区域で、避難指示が解除されて、帰還できるようになりました。去年 6 月 12 日には葛尾村 地区で、6 月 30 日には大熊町の大野駅周辺で、8 月 30 日には双葉町の双葉駅周辺で、避難指示が解除されました。双葉町では、9 月 5 日に町役場が、いわき市植田から双葉駅前に引っ越してきて、11 年 5 カ月振りに、人が住めるようになりました。今年の春からは、富岡町の夜ノ森駅周辺、浪江町の津島地区周辺が、そして、飯館村の長瀬地区周辺で、避難指示解除が予定されています。フクシマの復興は、正にスタート地点に立ったばかりなのです。

しかし、国は残りの帰還困難区域の避難指示解除については、土地所有者にアンケートを取って、帰還する人の土地だけを除染することにしてしています。帰還したくても、隣近所の家や田畑が除染されていなければ、帰還したい人が果たして戻ってくるのでしょうか。

放射能汚染水の海洋放出

菅政権は、福島第一原発（1F）の放射能汚染水を海洋放出することを閣議決定しました。東京電力は、今年から海洋放出を実施する予定です。1F に流入してくる地下水は、デブリを通過して、放射能汚染水になります。その量は、毎日 100～130 m³です。放射能汚染水は ALPS（アルプス）によって処理されますが、トリチウム（三重水素）だけは処理することができません。この放射能汚染水は、現在はタンクにたまり続けています。また、放射能汚染水は、デブリが取り出されて、1F が廃炉になるまでこれから 30～40 年間出し続けるのです。

東京電力や原子力規制委員会や国際原子力機関（IEAE）は、この放射能汚染水を海水で 10 倍に薄めて、5,000Bq(ベクレル)/kg 以下になるので、安全だと主張しています。しかし、例え 10 倍 100 倍に薄めても、トリチウムの総量は変わらないのです。トリチウムの総量規制が求められます。海洋放出には、福島県の漁協を始めとして、農協や生協の多くが反対しています。今までも、風評被害によって、フクシマの水産物や農産物は、安い値段で取引されてきました。東京電力では、放射能汚染水のサンプルで、ヒラメを飼育して安全性を証明します。しかし、飼育したヒラメが例え安全だとしても、そのヒラメを買って食べる人が果たしているのでしょうか。

また、原発の 40 年間の期間の延長や、新建設も具体化されます。“私達は二度と原発事故を起こさない、原発は全基廃炉を”誓ったはずです。私にとっても、「今年も慌ただしい年になるぞ！」と思ったら、布団の中で目が覚めて元旦の朝を迎えました。



【放射能汚染水の海洋放出反対！福島第一原発に一番近い漁港—請戸漁港の出初式（浪江町）】



【神様も宮司も氏子も皆なが避難中—帰還困難区域内にある正八幡神社（双葉町）】

福島県双葉郡檜葉町

上田 勉 メールアドレス p-mia08@outlook.jp